

11
591

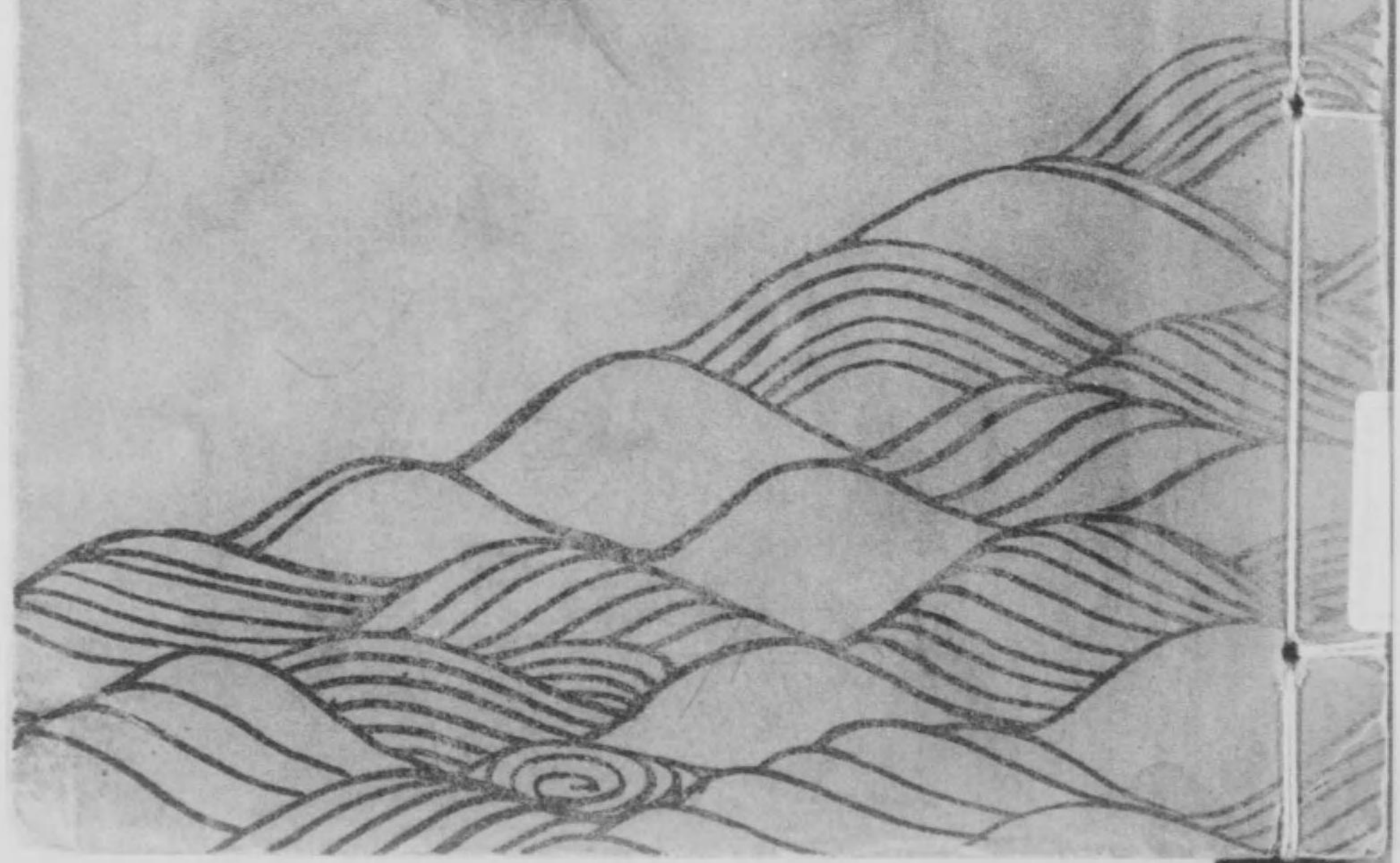
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



11
591

水
月
帳



11-591



水月帖

目次

一	正親町院天皇宸翰	歌
二	和宮親子内親王	歌
三	近衛信尹	書
四	德川秀忠	書翰
五	松平定信	望柳歌
六	高山彦九郎	歌
七	同	歌
八	德川齊昭	華押歌
九	四條隆謨	歌
一〇	武市半平太	茗礪書
一一	高橋多一	耶愛諸歌

南天莊先生	田口謙吉君	藤原鐵太郎君	同	南天莊先生	原邦造君	米井信夫君	南天莊先生	伊澤元藏君	米井信夫君	田中次郎君	所藏者
-------	-------	--------	---	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-----

大正
11. 9. 2
内交

二二	平野次郎	書翰	淺羽春之君
二三	近藤勇	詩	山田又市君
二四	細川幽齋	歌	賀古鶴所君
二五	契沖	書翰	南天莊先生
二六	同	歌(自書贊)	彌富破摩雄君
二七	荷田東万侶	歌	同
二八	賀茂真淵	歌	同
附	加藤千蔭	文	同
一九	加藤枝直	歌	同
二〇	加藤宇万伎	歌(自書贊)	同
二一	本居宣長	歌	同
二二	同	歌	田中次郎君
二三	同	歌	山田又市君

二四	荒木田久老	歌(書贊)	南天莊先生
二五	香川景樹	歌(書贊)	彌富破摩雄君
二六	藤井高尙	歌(書贊)	藤原鐵太郎君
二七	鹿持雅澄	歌	彌富破摩雄君
二八	岡西惟中	歌	久保田米齋君
二九	同	北水浪士詩	同
三〇	小澤蘆庵肖像		彌富破摩雄君
三一	朱樂菅江肖像	自贊	渡邊和太郎君
三二	中江藤樹	文	原邦造君
三三	湯淺常山	詩	藤原鐵太郎君
三四	秋山玉山	詩	彌富破摩雄君
三五	龜田鵬齋遊鶴	歌	久保田米齋君
三六	賴山陽	書翰	山田又市君



四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七
慈	冷	宇	谷	酒	篠	大	坂	十	貫
雲	泉	喜	文	井	澤	原	谷	時	名
百	爲	多	晁	抱	隆	左	朗	梅	海
不	恭	一		一	壽	金	廬	崖	屋
知		蕙		輕		吾		賜	苞
童		書		舉				歌	歌
子		書		歌		書		歌	歌
歌									同

合計 四十八圖版

同	彌	南	杉	新	同	久	藤	南	同	彌
	富	天	田	美		保	原	天		富
	破	莊	駿	直		田	鐵	莊		破
	摩	先	君	君		米	太	先		摩
	雄	生				齋	郎	生		雄
	君	君				君	君	君		君

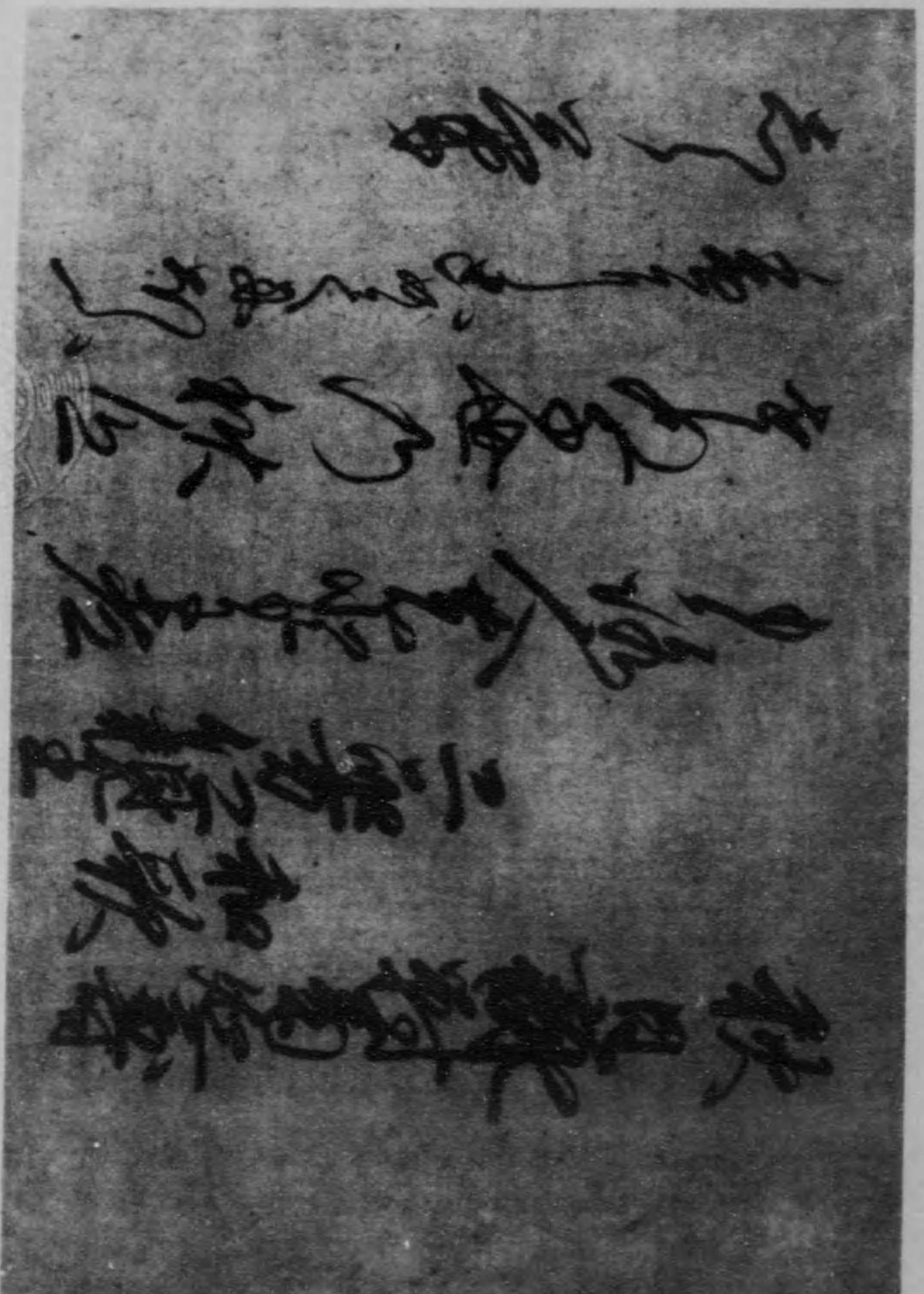
四

一 正親町院天皇宸翰

縦一尺一寸四分 横一尺六寸五分

考證 御踐祚以前の御懷紙なり御諱の

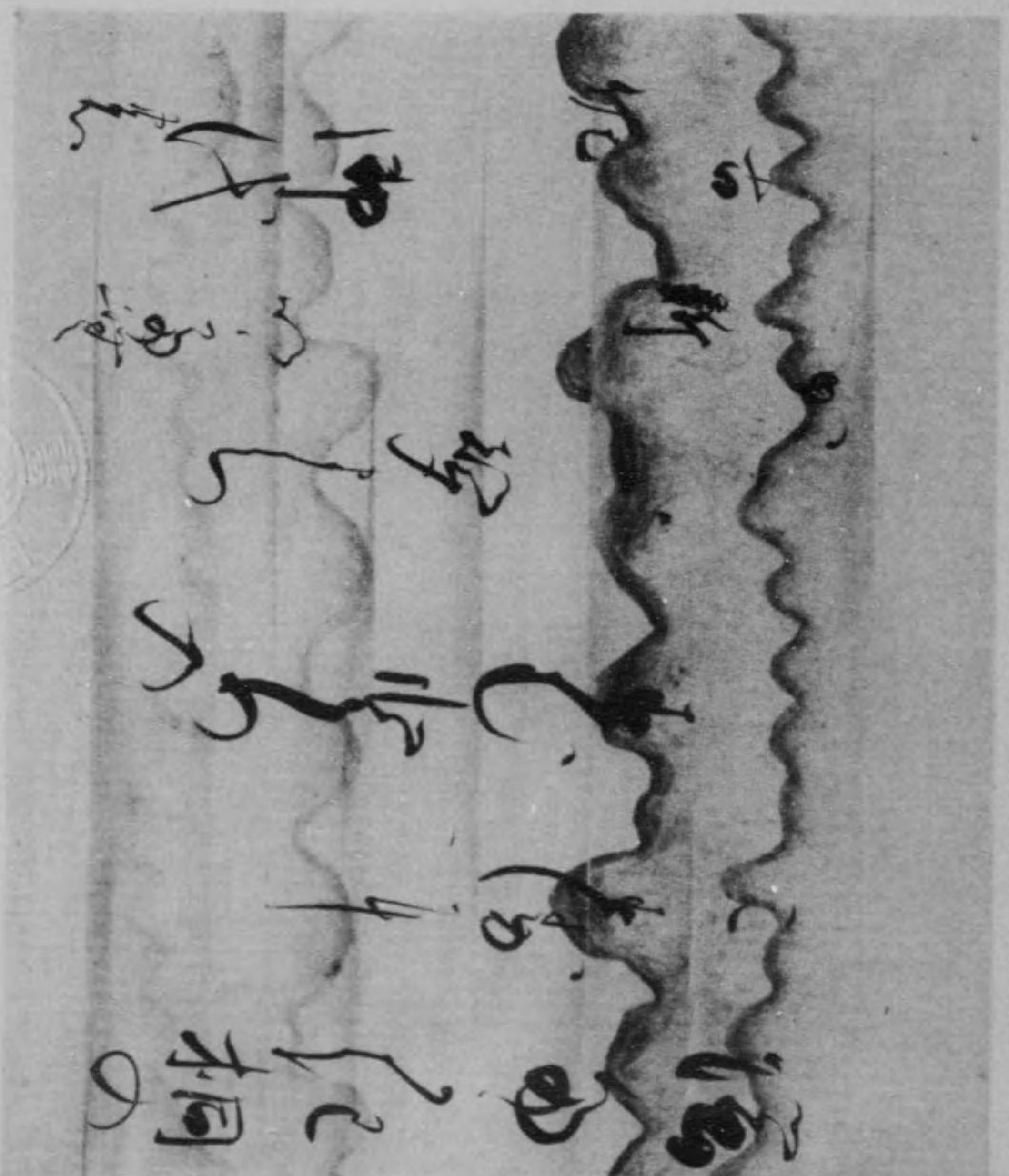
訓はシゲヒト



秋日歌行
二葉纏
和歌
御懷紙
正親町院
天皇宸翰
訓はシゲヒト

二 和宮親子内親王

懷紙



三 近衛信尹

紙本

縦一尺九寸一分 横一尺三寸二分

譯文 をがさはらへみのみまきのはなれごまいとぞけ

しきのはるはあれます

考證 堀川院百首顯仲の歌なり但百首には四句ケシキ

ゾとあり又結句は夫木抄にはアレユクとあり



四 徳川 秀忠

縦一尺九分 横一尺五寸四分

譯文

先日彼來不懸御目御床しく候明晩御出被

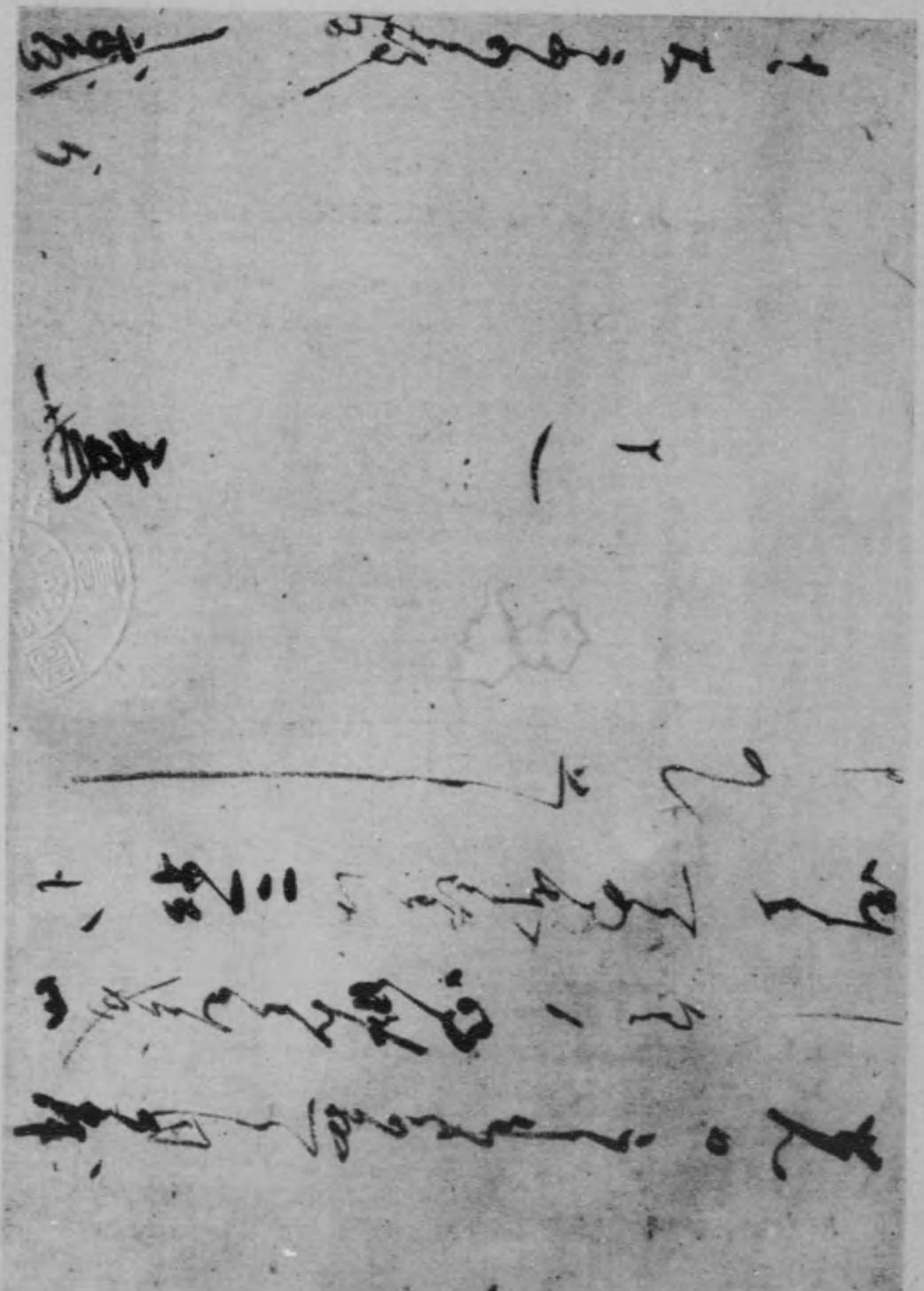
成御咄候ば可爲本望候三松へも申入候

恐々謹言 十一秀忠華押 大宗五殿參

武藏 〆

考證 大宗五は大友義統の子宗五郎義乘又

義延なり三松は斯波義銀の軒號なるべし



五 松平定信

絹本

縦三尺八分 横九寸弱

印文 丁卯 華月 書足以記名姓而已

山任村
 九
 月
 廿
 日
 松平定信
 書

印文
 丁卯
 華月



七 高山彦九郎

縦九寸一分 横一尺一寸

考證 前のおなじく祖母の喪に籠りし程
の詠草なり

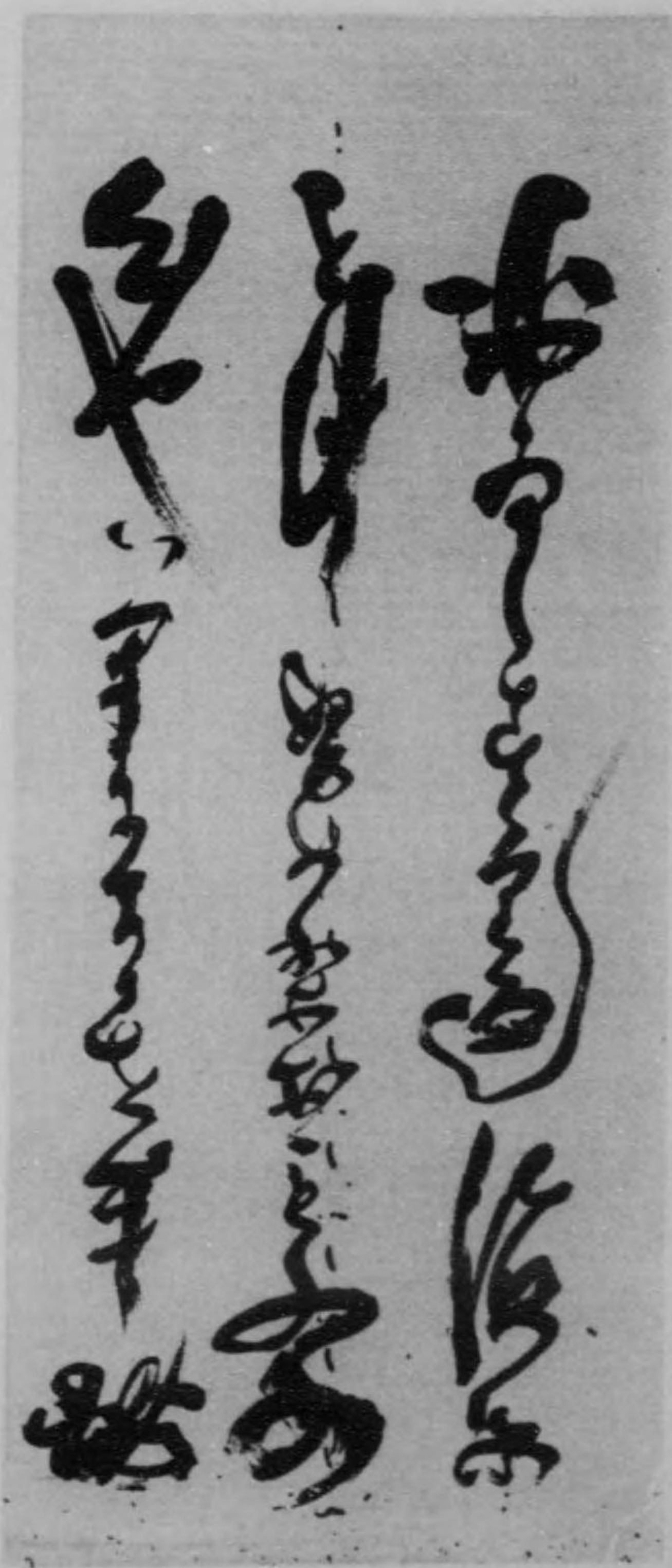
子生のつらさ
 降参の上はあまを
 思ふまゝの心
 孝孫
 正三
 孝孫
 思ふまゝの心
 思ふまゝの心
 思ふまゝの心
 思ふまゝの心
 思ふまゝの心

八 徳川 齊 昭

紙本

縦四尺三寸 横一尺九寸六分

譯文 氷るしすすりの海もとけぬめりおもふ心や筆に
まかせむ 華押



氷るしすすりの海もとけぬめりおもふ心や筆に
まかせむ

九 四 條 隆 哥
懷 紙

夏 月
中 三 日 夜 月 三 日
春 月 三 日
月 三 日
隆 哥

一〇 武市半平太畫 中岡慎太郎賛

紙本
縱三尺一寸 横一尺二分
印文 武市小楯 茗水礪印
中岡慎印 迂山



一 高橋多一郎

紙本

縦二尺八寸 横五寸一分

寛政六年己未七月十二日謹奉献
 八幡宮社前
 武士の神主とていふもろり
 高橋多一郎
 高橋多一郎謹記

一三 近藤 勇

紙本
縦四尺五寸 横一尺一寸二分
印文 青天白日 藤原勇印 得候

倒修在太近而河接好用之實人一體亦
校通之升秋漢風神活實中時節也
瑞珠通德者於管位也信



縱五寸 横二尺四寸六分

譯文

△△△左衛門様

△

圓珠庵

契

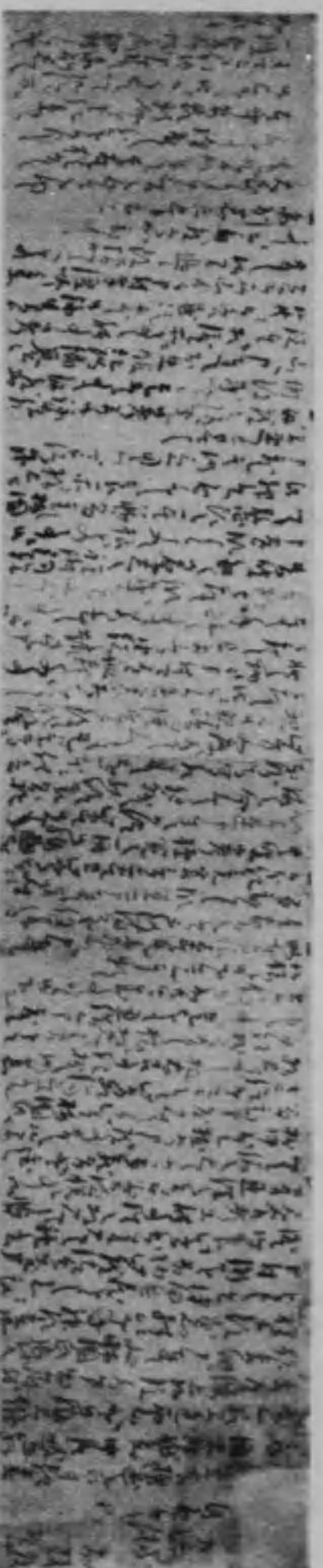
沖

△△氏返書之内

梅園平吉撰述之古事記集解國史神祇集中臣戒愚解各一箱早
 運西山へ遣御紙上之趣委及濱上候後水戸出府に付猶委細に
 申達候處梅園氏成功之程被致感心殊に先年神道集成申候
 書津田兵藏と申候者に被申付漸遂成功此度清書等被申渡候
 時節此書到來右之神書見合考等能事往々相見え申候置可有
 恩借之旨にて別て滿悦之事御座候依之右之書兵藏方へ遣置
 申候抄中少々披書申度事有之候間留置申度御座候間此旨梅
 園氏へも被仰遣可被下候此方相濟候はば早速指上せ可申候
 事に是をも恩借被申度候草稿にて成共可成事候はば御下し
 候様に御才覺奉願候

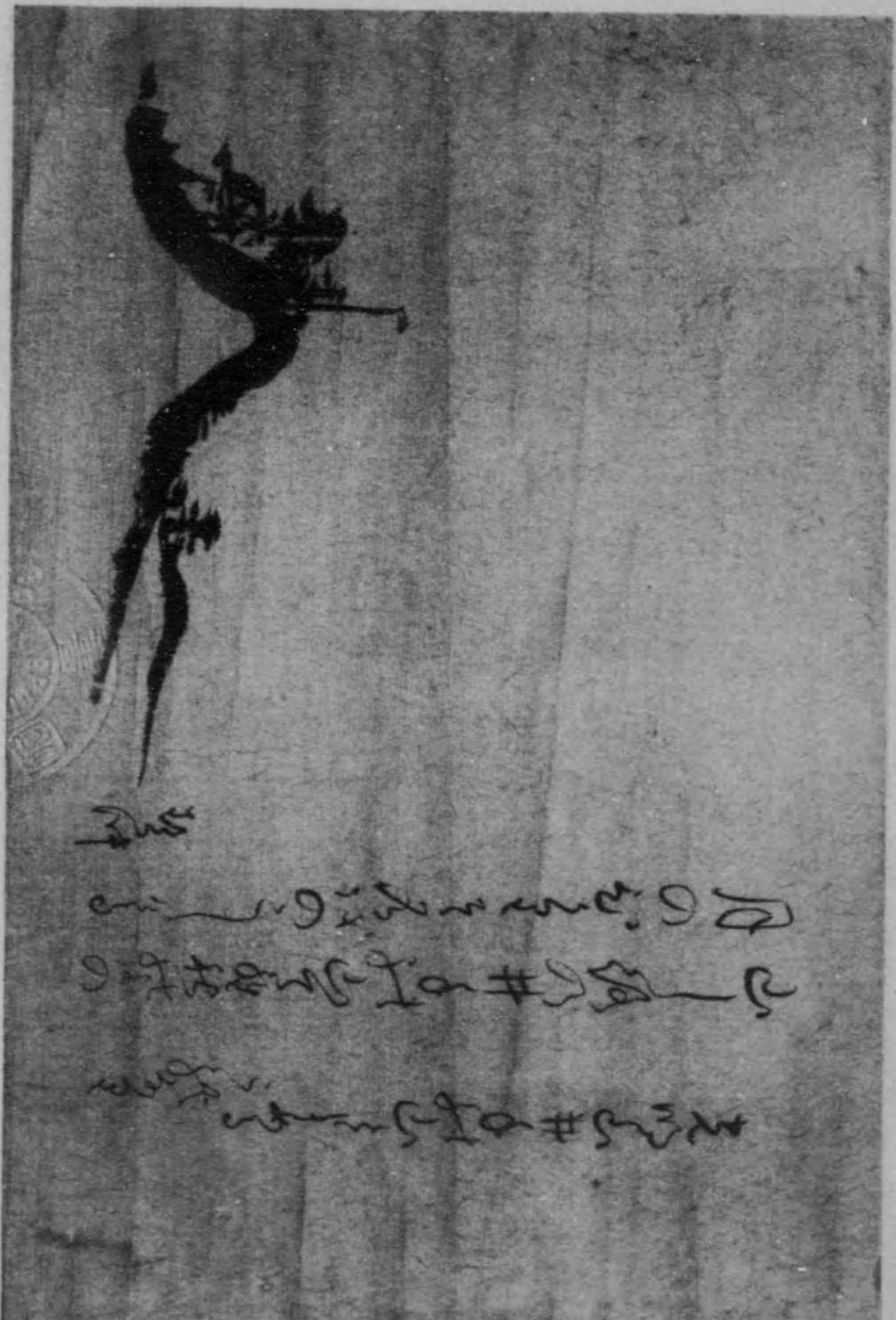
一略本六帖三卷是亦西山へ申達候重寶之書被致満足候任來
 意留置被申候段宜可申達候旨御座候
 一日本紀覽宴歌二卷且此寫本に貴更御考標閱之一冊御紙面
 を以早速申達候如仰此卷先年佐々介三郎肥州へ罷越候節則
 於本妙寺寫取來候を一本に仕立此方文庫に有之候へども是
 は宗尊親王御親蹟を模寫被致候故珍重被存候由にて早速裏
 打をいたし軸之物に被申付可有秘藏との事御座候且平三郎
 由緒之趣も具申達候手跡之事も若年之事にては奇特に被存
 候段感實不少候貴更毎々御厚志之程謝詞難申盡段よく申入
 候様にこの事に御座候髓頭之一卷は暫留置候梅園氏神書返
 進之節一所に指上せ申度候其内急用候はば可被仰下候早速
 上せ可申候

一每度之隨筆御考并御詠草乍例致成吟候是等之事も每度西
 山へ申達候於史館紀傳編纂之諸生へ相渡候所に事々能事御
 考候由にて各感信不少候御詠草は兼て西山へ被申付幸漫吟
 集有之候間追々致増加候へとの事にて每度書加置申候
 一泉州志六卷云々
 右正月十三日之返書之内候去る九日相達候首尾猶有之候
 へども證要之分懸御目候春中安藤新介と申仁京へ御上せ
 候由にて被上候はば拙僧方へも可被尋由申來候泉州志之
 一條五左衛門狀之内切抜候て進候如左候



紙本
縱九寸七分 橫一尺四寸四分

一六契
冲



一七 荷田東万侶

懷紙

縱一尺六分 橫一尺四寸

夏日詠朝折雙友

和歌

東島浪

龍乃山此之詠

之々然也其心

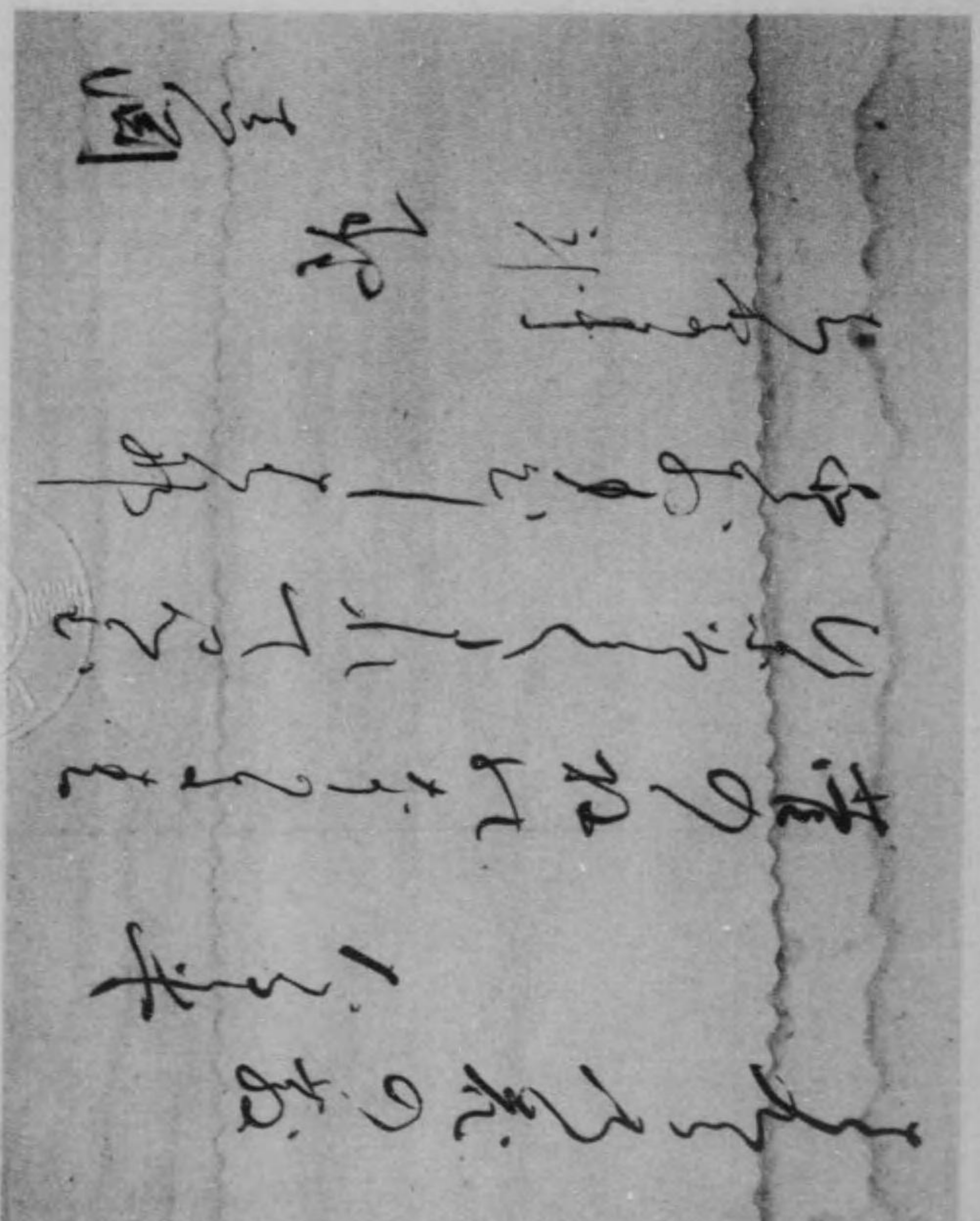
為子十子之擗

右流詠

一八 賀茂真淵

懷紙

縱一尺二分 横二尺三寸



美濃の
花の如く
山に下る
中を流す
水
如く
流す
如く
流す

附 加藤千蔭

紙本

縦一尺一寸六分 横一尺六寸五分

譯文

見せさせたまへる一卷

昔のねの長き春日に袖たれてみむとおもひし
花ちりにけり

こはかもの翁のおもひあがりてよみ出られたる歌

にてこどに筆のあとうたがふべくもなぐなんこれ

をみておもひ出し事侍り千蔭いどわかかりしをり

萬葉集をどきかせられけるに十九の卷「袖たれ

ていぎ吾國に鶯の木傳ちらす梅花みん」といへる

歌をよむ時昔の袖は紀にも定ある如くせばくて長

し「廣せ河袖つく計淺をや」と集中によめるをも

おもへさて此うた何事もなけれど長き袖を垂て庭

にたてらんさまおのづからのどかにおもひなさる

ふるき歌はかゝる所にたへなる事有心をつくべし

とをしへ給へりき翁の此歌も右のふるうたをおも

ひてよまれたる事しるし廿日には東海寺の山ぶみ

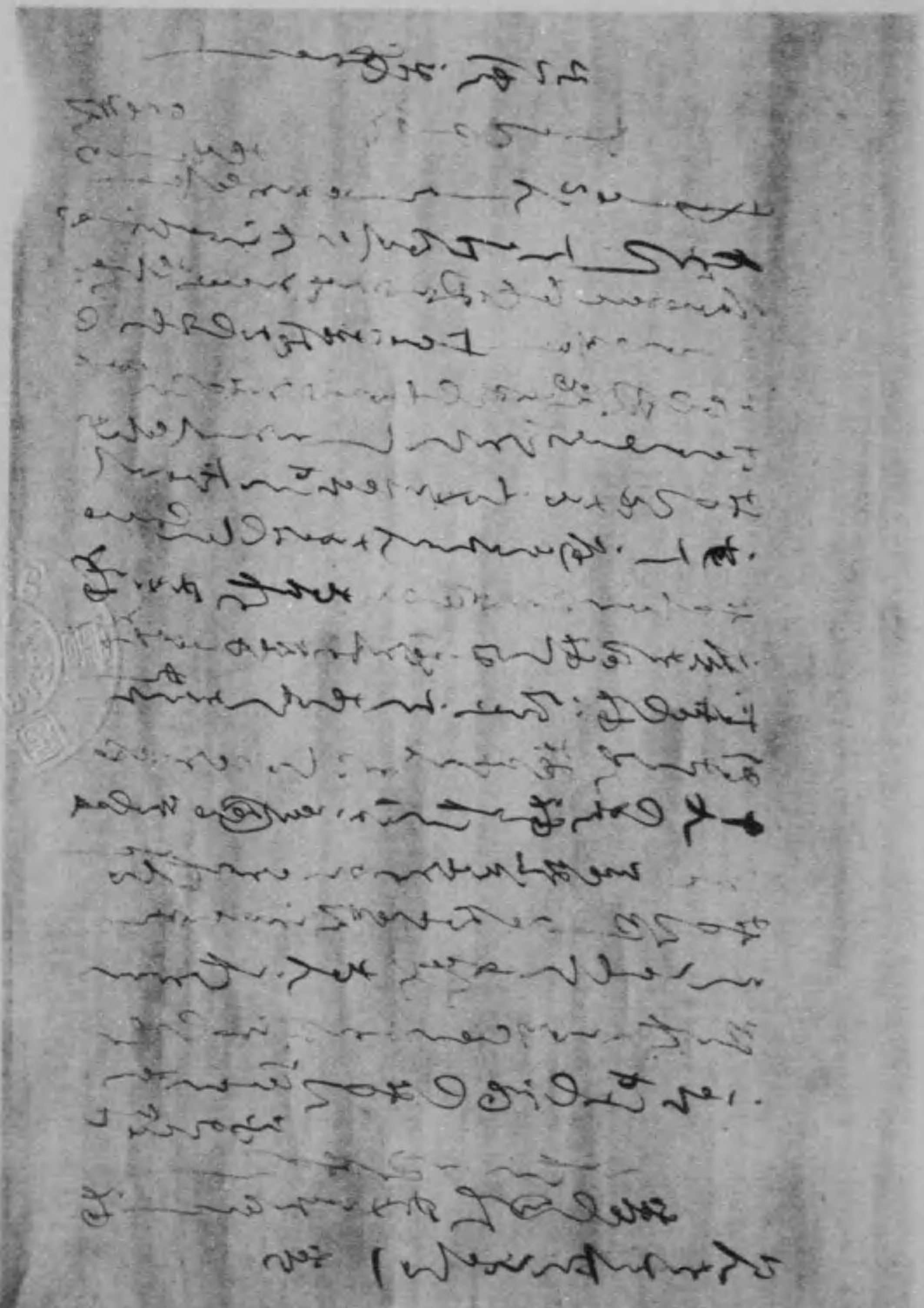
の會にまかりぬれば此うたこそをりにもあへれば

もて行てかけ侍るべけれどいどよるこはしき事にな

んしばしかさせ給へかしこ やしひ十六

眞番君の御もどに

千蔭



紙本
縱九寸二分 橫一尺四寸五分

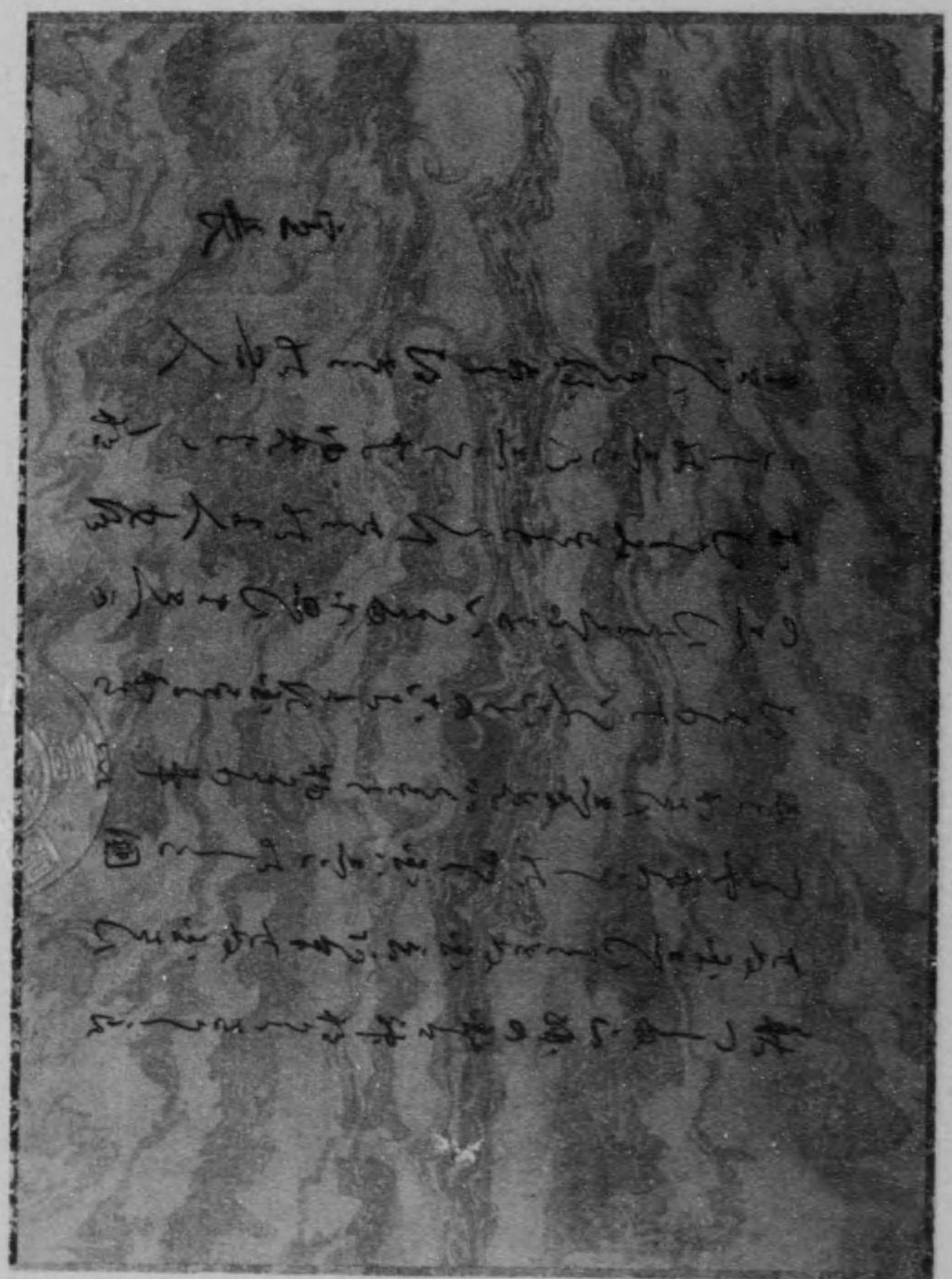
二〇 加藤字万伎



三 本居宣長

紙本

縱一尺一寸二分 橫一尺五寸五分



宣長

三三 本居宣長

紙本

縦三尺三寸九分 横九寸四分

譯文 世々の祖のみかげ忘るな代々の祖は

己が氏神己が家の神 平宣長

考證 玉銚百首の中なり

世世乃祖乃美加宜忘勿代代乃祖波
己賀氏神己賀家之神

平宣長

二四 荒木田久老賛 度會常彰畫

紙本

縦二尺八寸五分 横一尺一寸一分

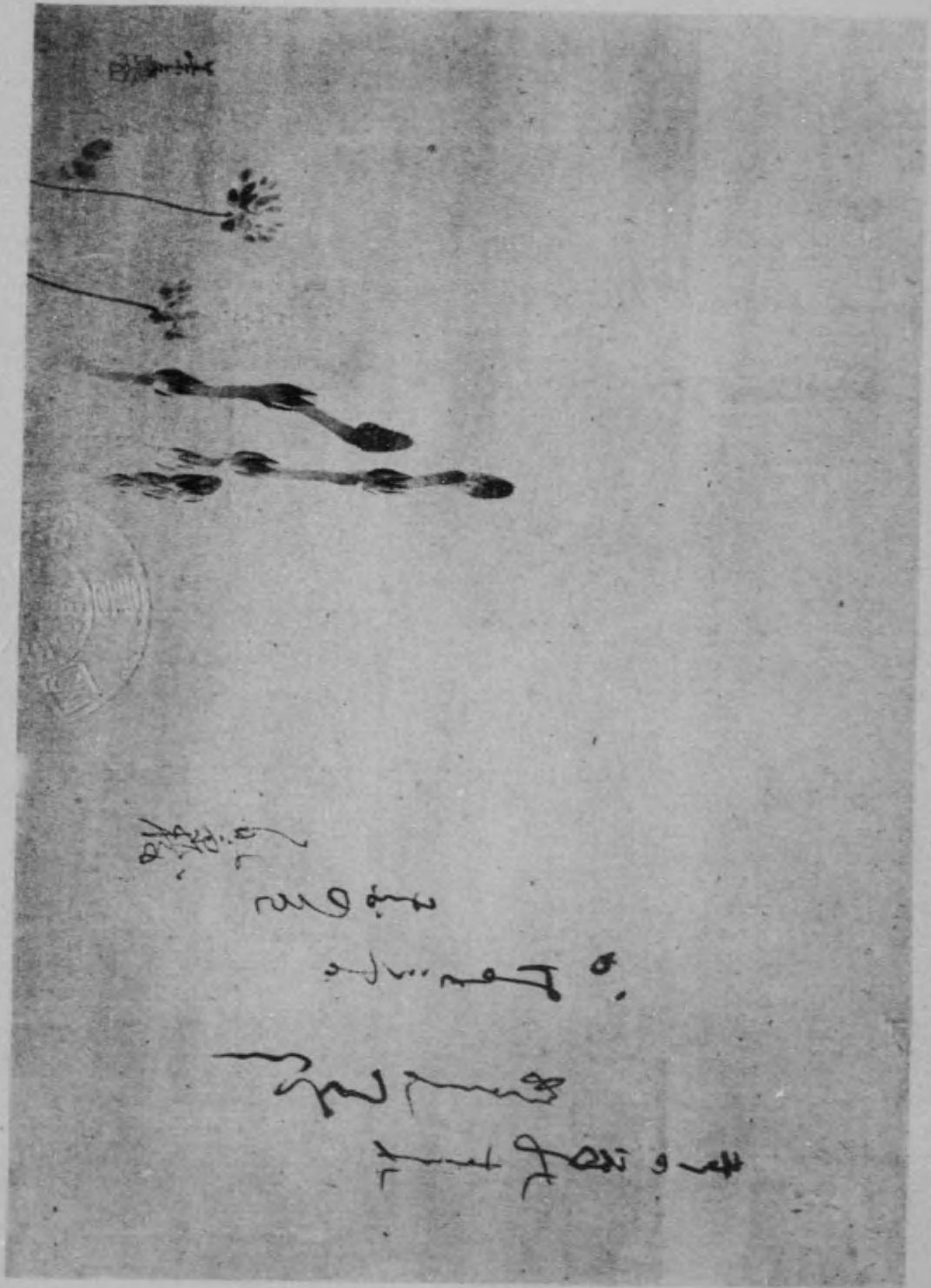
考證 常彰は久志本氏享保中の人にて若干の著書あり
こは常彰の畫のありしに世を経て久老の賛を加へた
るなり



三五 香川景樹賛 松村景文書

紙本

縱一尺一寸五分 橫一尺六寸三分



二六 藤井高尙賛 杏塢畫

紙本

縦三尺二寸四分 横一尺一寸六分

畫人印文 珥印

譯文

俊成卿の歌おもひし給ふかたはふるくよりありつれどもことたがひたるふしのまじりてよからねばおのれ京にまゐりをりける頃ゑぼうし火桶どうだいなどもみなその世のをとり出てあるゑしにうつしかかせとかう言くはへてもしたる此かたになむさてかけ物といふものになしてことの葉のまどゐのをりをりに小ゆかのかべにかけて拜むをがむ思ふ心を

遠き世をしのふかたみの一ふしはきえぬ小篠の露の言の葉

文政二年九月十五日 中山宮々司長門守從五位下藤井宿禰高尙

考證 高尙の松屋文後集中卷に「俊成の三位の君の像をうつしえたる小野湘雲をほむる詞」といふ文あり此畫とは別なり



俊成卿の歌おもひし給ふかたはふるくよりありつれどもことたがひたるふしのまじりてよからねばおのれ京にまゐりをりける頃ゑぼうし火桶どうだいなどもみなその世のをとり出てあるゑしにうつしかかせとかう言くはへてもしたる此かたになむさてかけ物といふものになしてことの葉のまどゐのをりをりに小ゆかのかべにかけて拜むをがむ思ふ心を

遠き世をしのふかたみの一ふしはきえぬ小篠の露の言の葉

文政二年九月十五日 中山宮々司長門守從五位下藤井宿禰高尙

二七 鹿持雅澄

考證 裏書に據れば幸ヨシトの方は文化十四年二十七
歳の筆、思ドチの方は文化九年三十六歳の筆なり

大嶋

幸ヨシトの方は文化十四年二十七
歳の筆、思ドチの方は文化九年三十六歳の筆なり
鹿持雅澄

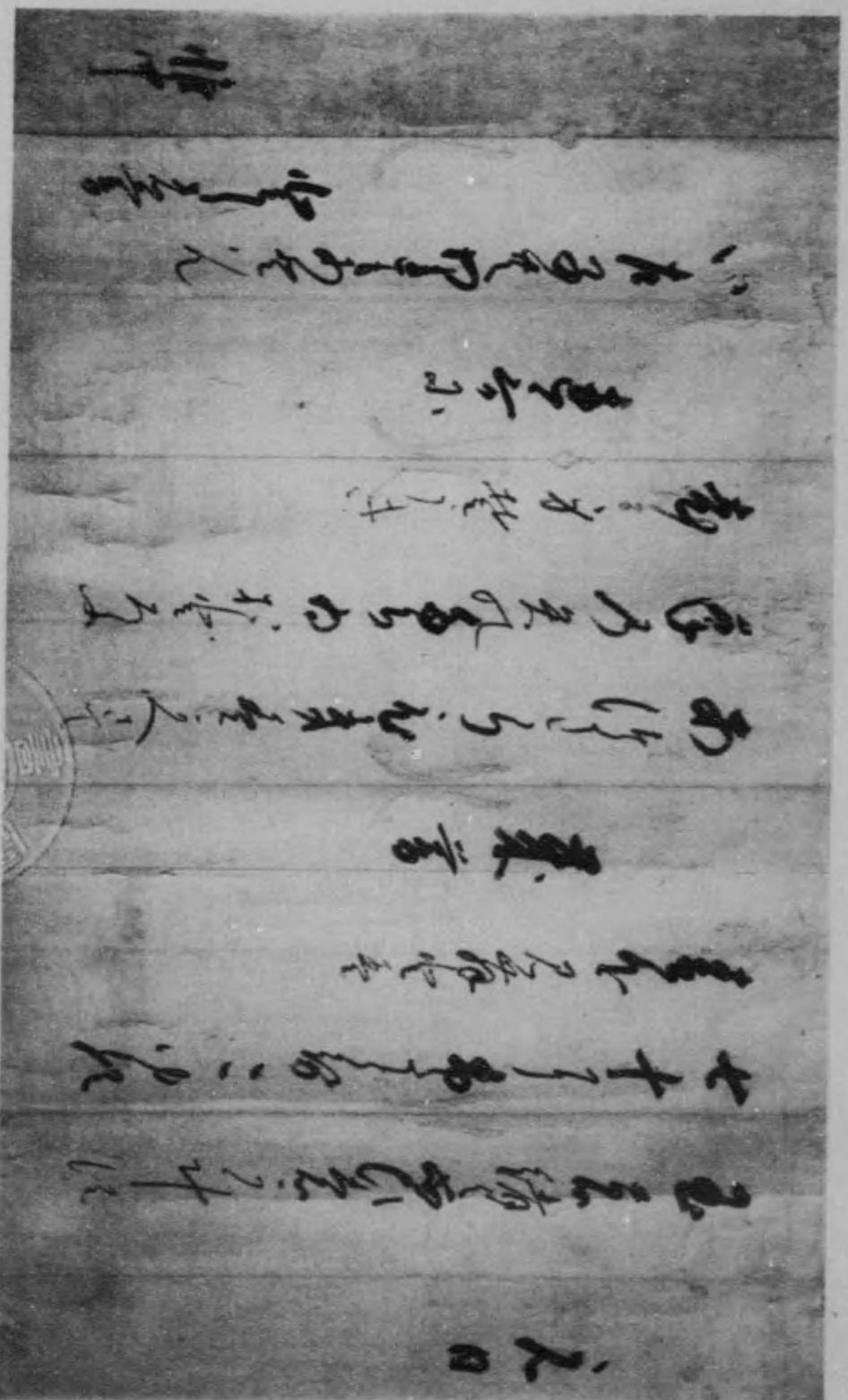
幸ヨシトの方は文化十四年二十七
歳の筆、思ドチの方は文化九年三十六歳の筆なり
鹿持雅澄

二八 岡西惟中

紙本

縦一尺二寸 横二尺九分

考證 惟中の得年は昔より「元祿五年歿す年五十四」とせるを我南天莊先生此詠草に七十二ノタトセユル春ヲ見ムトハとあるに眼をぞめて遂に正徳元年十月廿六日に七十三歳にて歿せし確證を得られしなり



之

玉玉結露の心は

七十二の春に

春は元祿五年

東言

あけらば春は

花入るるは

春は元祿五年

東言

春は元祿五年

東言

東言

紙本
縱九寸五分 橫一尺八寸三分
二九 岡西惟中

杭稻熟天風
熟禾杭稻名家
枯風多送西六十
別不用笙簧二
平樂費人教腹
各歌謳
此水靈揮筆



三〇 小澤蘆庵畫像

紙本

縦二尺八寸七分 横一尺五分

落款 華山黃暉三寫 印文 華山

考證 横山華山は天保八年に五十四歳にて歿せし人にして蘆庵の歿せし享和元年には年甫めて十八なりきされば此畫像は親しく寫ししものにはあらで藍本に據れるならむ然も其藍本は未世に現れざれば此畫像は史料として貴重なるものなり蘆庵の短冊に玄仲と書けるものと玄冲と書けるものとあり南天莊先生の説に初小澤帶刀玄仲ハルナカといひしを剃髮の時仲を冲に改めて玄冲ゲンチュウと稱し又(或は後に)蘆庵と稱せしならむといへり上に貼りたる書翰の斷片は似つかはしきものを求め出でて貼りたるのみ像と關係あるものにあらず蘆庵は琴に堪能なりき





三一 朱樂菅江畫像

紙本

縦一尺九寸 横一尺六分

書人落款 籬菊磨敬書 華押

譯文 入道は麻のさころもたゝひとつ春のきたとてへ
んてつもしなし

三 中 江 藤 樹

紙本

考證 此は大正八年四月南天莊先生が京都

にて發見せられたるものなり某伯の舊藏に

て成書に出でたる同文の一幅は大儒の體

定書さへ副ひたれど偽物なり

原註以通三儀

熊氏子之行

不佞固非溫故知新者三同志歟惟以爲句讀之師得也

而編依惟數學事念終始與子學之法言而常與我哉有後

學著躡履屐涉于春秋熊澤氏亦有此招今將釋發其歸別

告曰夫師範之實立本於德微而通於議論或與世進也不

與世進也與世進也亦保其往也而不爲已甚語上或下發

舉一隅以待其及或憤惟而居格登之或進之或退之或如

時雨化之或成德或達財惑各問善教之如誰激明者拱把

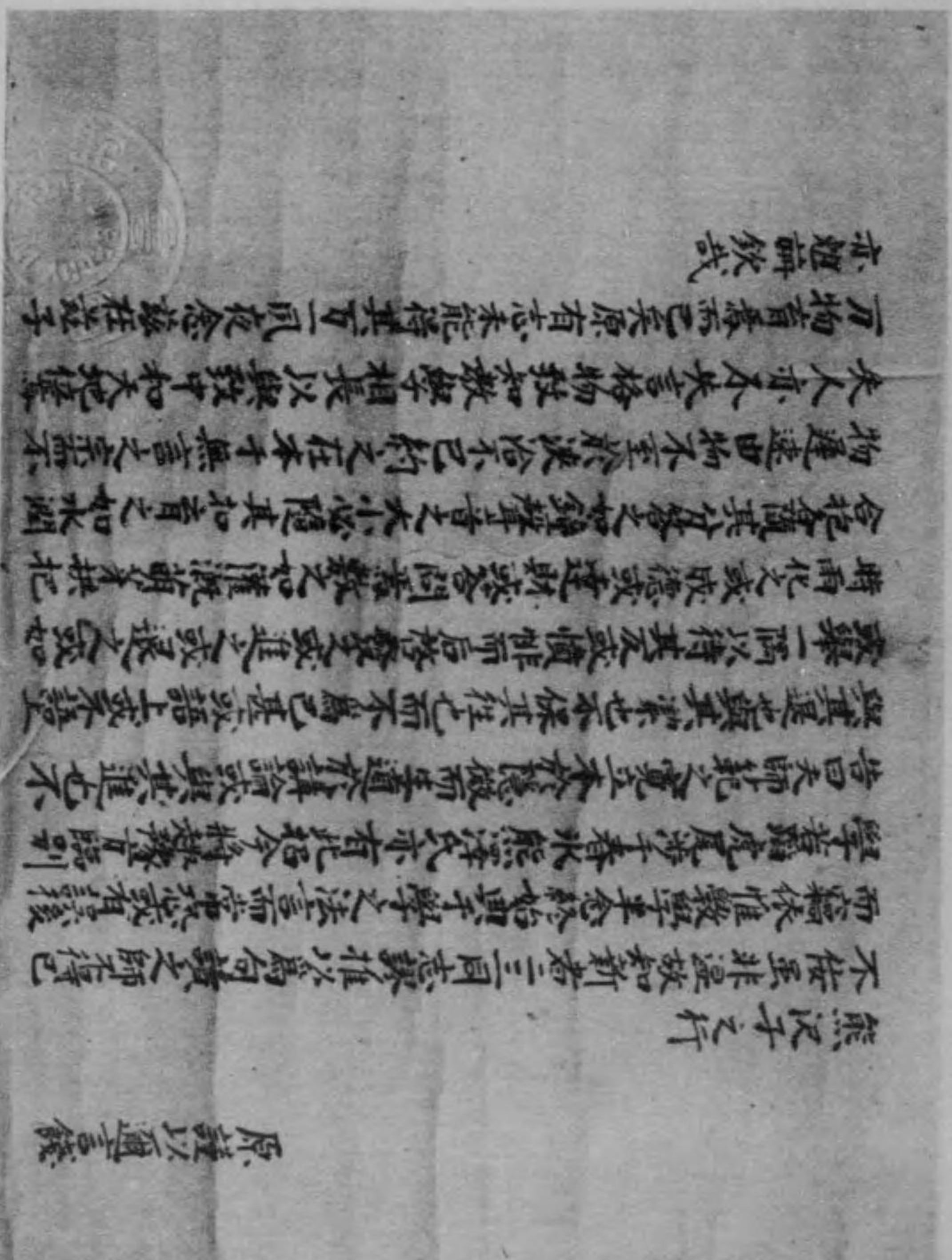
含括會通其分各之如鐘聲音之大小必隨其和音之如水瀾

物遲速由物不至於波冷不已約之任本才無言之蓋不

失人亦不失言格物致知教學相長以與致中和天地偉

乃物育養而已矣原有志未能得其百一夙夜念茲在茲子

亦燈研欽哉



三 湯淺常山

紙本

縱九寸七分 橫一尺二寸二分

印文 湯元禎印 願情志于典籍

函嶺道中
 丹榜三第大斜陽彩
 翠壘回看湖水上影
 湧玉芙蓉
 夜雨
 懽寒燈色風雨曉難
 鳴寂寞撫枕歎論定
 身後名
 元禎

三四 秋山玉山

紙本

縦一尺二分 横一尺三寸五分

考證 秋山儀が古歌を詩に譯したるなり初

の詩は玉山先生詩集卷五に

志賀歌 志賀皇都古。荒涼已矣哉。年

年三四月。依舊山櫻開

ざありといふを改作せるなり

玉山先生詩集卷五に
 志賀皇都古。荒涼已矣哉。年
 依舊山櫻開。年三四月。
 ざありといふを改作せるなり
 考證 秋山儀が古歌を詩に譯したるなり初
 の詩は玉山先生詩集卷五に
 志賀歌 志賀皇都古。荒涼已矣哉。年
 年三四月。依舊山櫻開
 ざありといふを改作せるなり
 紙本
 縦一尺二分 横一尺三寸五分
 三四 秋山玉山

三五 龜田 鷹齋

紙本

縦二尺八分 横五寸七分

譯文 この冬もふるしら雪にうづもれぬまたくる春を

松の山里 遊鶴

印文 鷹齋

松の山里 遊鶴
この冬もふるしら雪にうづもれぬまたくる春を
鷹齋

三六【甲】頼山陽

縦五寸一分 横一尺六寸八分

譯文

昨日は傾困倒屣汚高覽候へども未蓋些候よそや

御寓目被下候山紫水明處長短は何ぞぞ御出来し可

被下候利目相待候御珍饗之福海御寄示大事に仕置

熟覽可仕候併心配之もの也

梅花書屋之圖今一應見申度ものに候魴魚みそつけ

は未試内より垂涎候忝奉存候景樹へ御出の事もあ

らば御同道可仕候今日御移寓にや君自此遠矣又一

陶託貴价候御嗜み御上り可被下候 草々以上

七月廿六日

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a copy of the text on the right page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It includes the date '七月廿六日' at the top right of the page.



三七 山 頼 陽

縦五寸三分 横一尺三寸五分

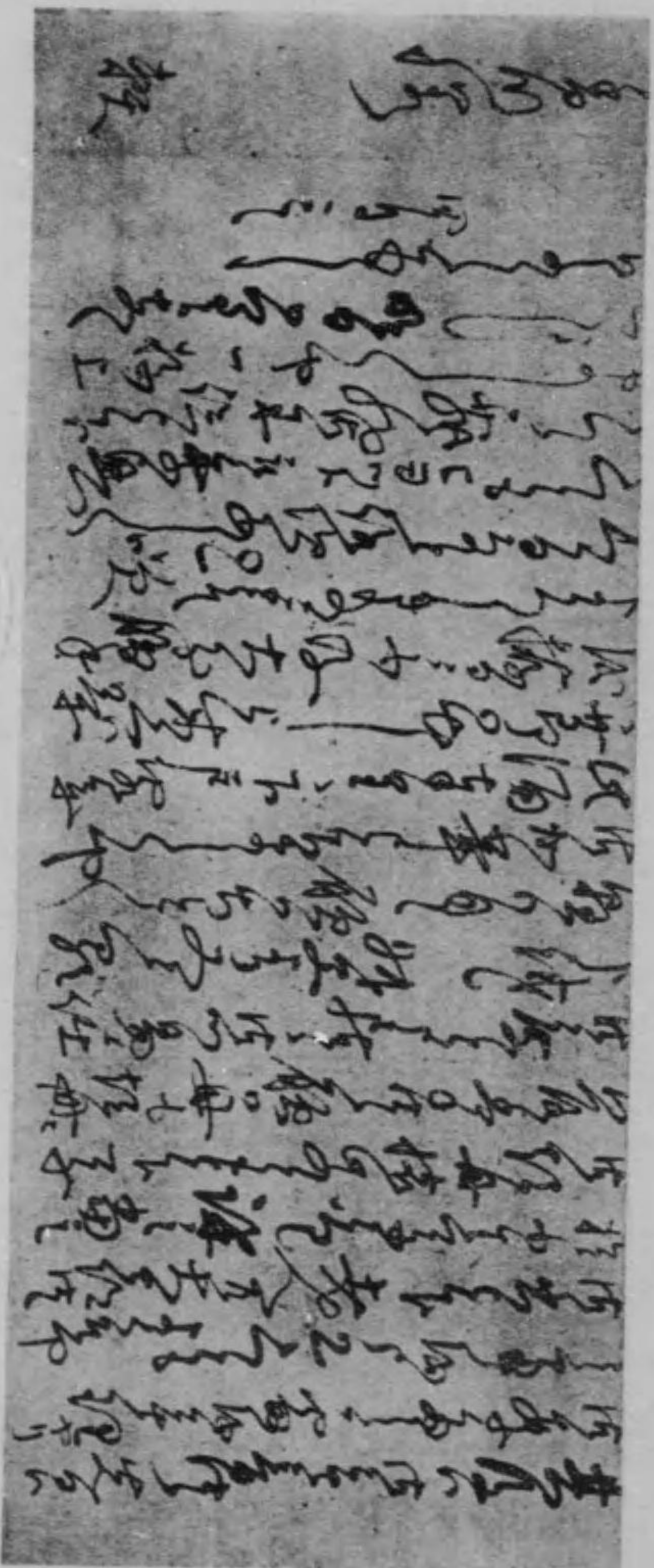
譯文

其後は御無音仕候先日は御繁多之處を無理やり之
 事を申上候へどもよくぞや御出被下老人共大喜仕
 候於小生忝奉存候譚之當之御短冊懐帯ども被下忝
 落筆仕候願は母も短冊に仕度と申居候御心易に任
 申試候叔父より又々歌懸御目候願はちどく御加
 筆被下まじくや此酒奉呈候下戸客參候節御出し被
 成候へば茶を拵るに不及大分勝手よろしきものに
 もどて御一啖今日なご路次あしく候へどもヒョッ
 と被乘興候は、馳然御來臨被下まじくや一杯上可
 申候明日は差支候 草々頓首 四月三日

香川様 頼

考證 文政十年の書翰なり老人共といへるは叔父香

坪と母梅颯となり



三八 貫名海屋

紙本

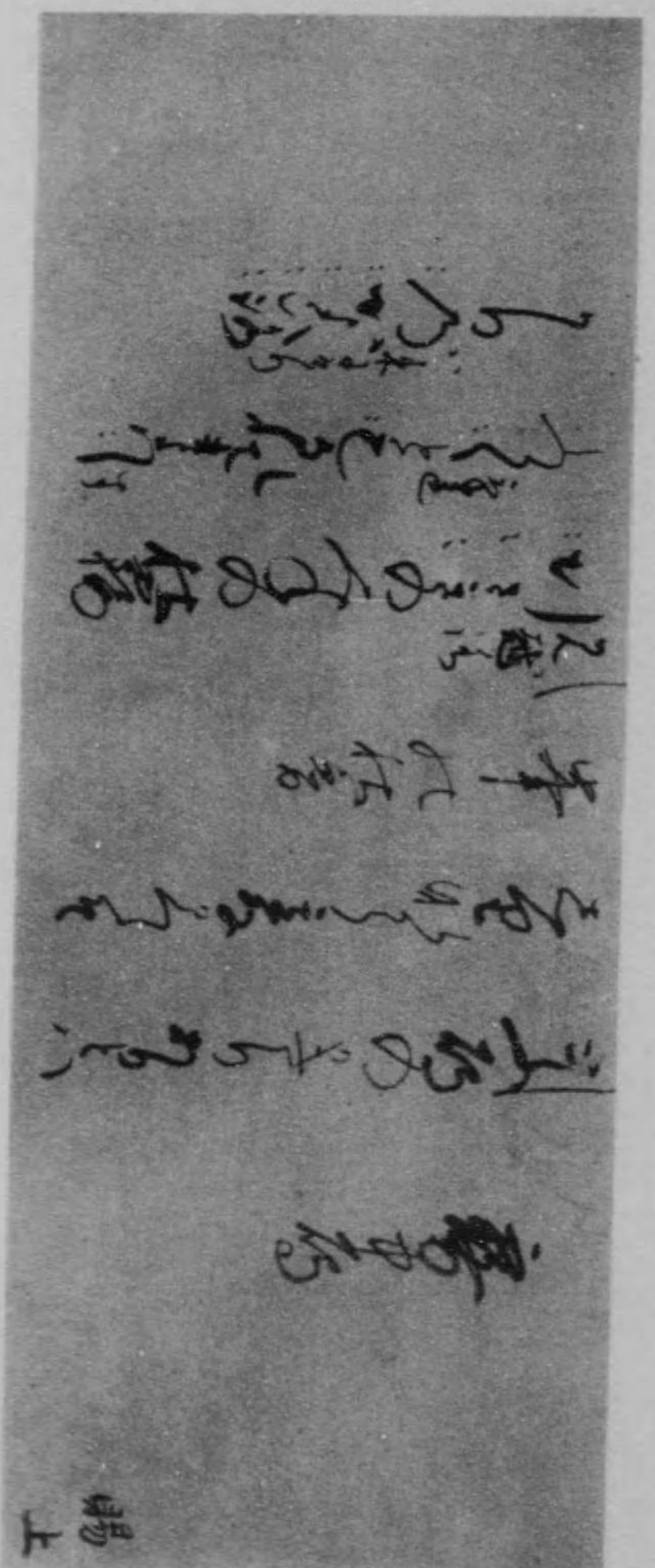
縦三尺九寸八分 横九寸九分

考證 海屋の名苞はシゲルとよむなり

貫名海屋の
名苞はシゲルとよむなり

三九 十時 梅崖

縦五寸二分 横一尺三寸三分
考證 僧澄月の添削なり



梅崖
十時
三九
考證
僧澄月の添削なり

場
上

四〇 坂谷朗廬

紙本
縦七寸
横四寸四分

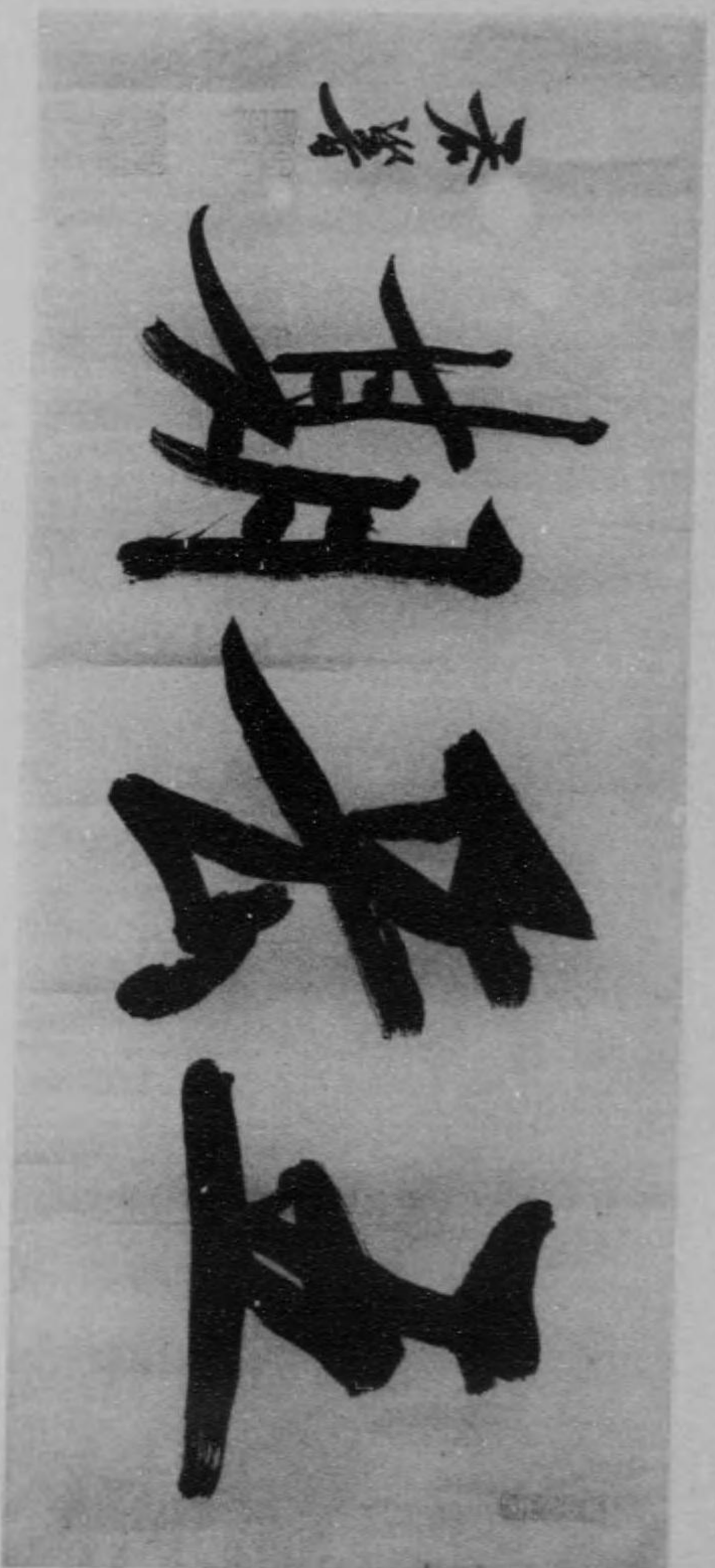
梅の香は枯し庭の
津土のつらさ梅木の
み
み
朗廬

四 大原左金吾

紙本

縱九寸二分 橫二尺二寸

印文 大原翼印 雲卿



四二 篠澤隆壽及酒井抱一

譯文

寒草少 高がやもしの、薄もかれふしてかせのみさ
ゆるむさし野の原 隆壽
うぐひすにわが身をなさは梅の花さきちるまではや
ごやからまし

考證 寒草少の三字は景樹の書なり

寒草少
高がやもしの、薄もかれふして
ゆるむさし野の原 隆壽

うぐひすにわが身をなさは梅の花さきちるまではや
ごやからまし

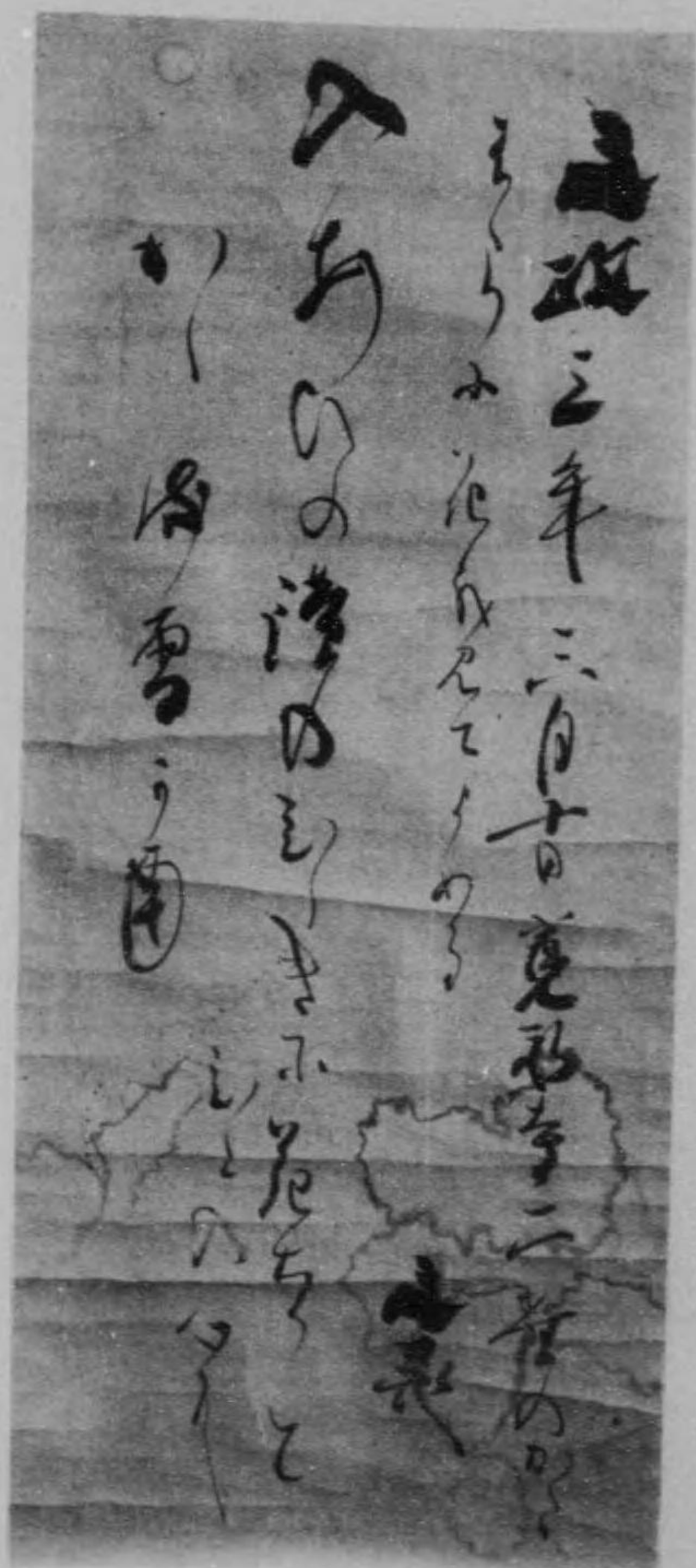
四三 谷 文 晁

紙本

縦二尺六分 横八寸五分

譯文

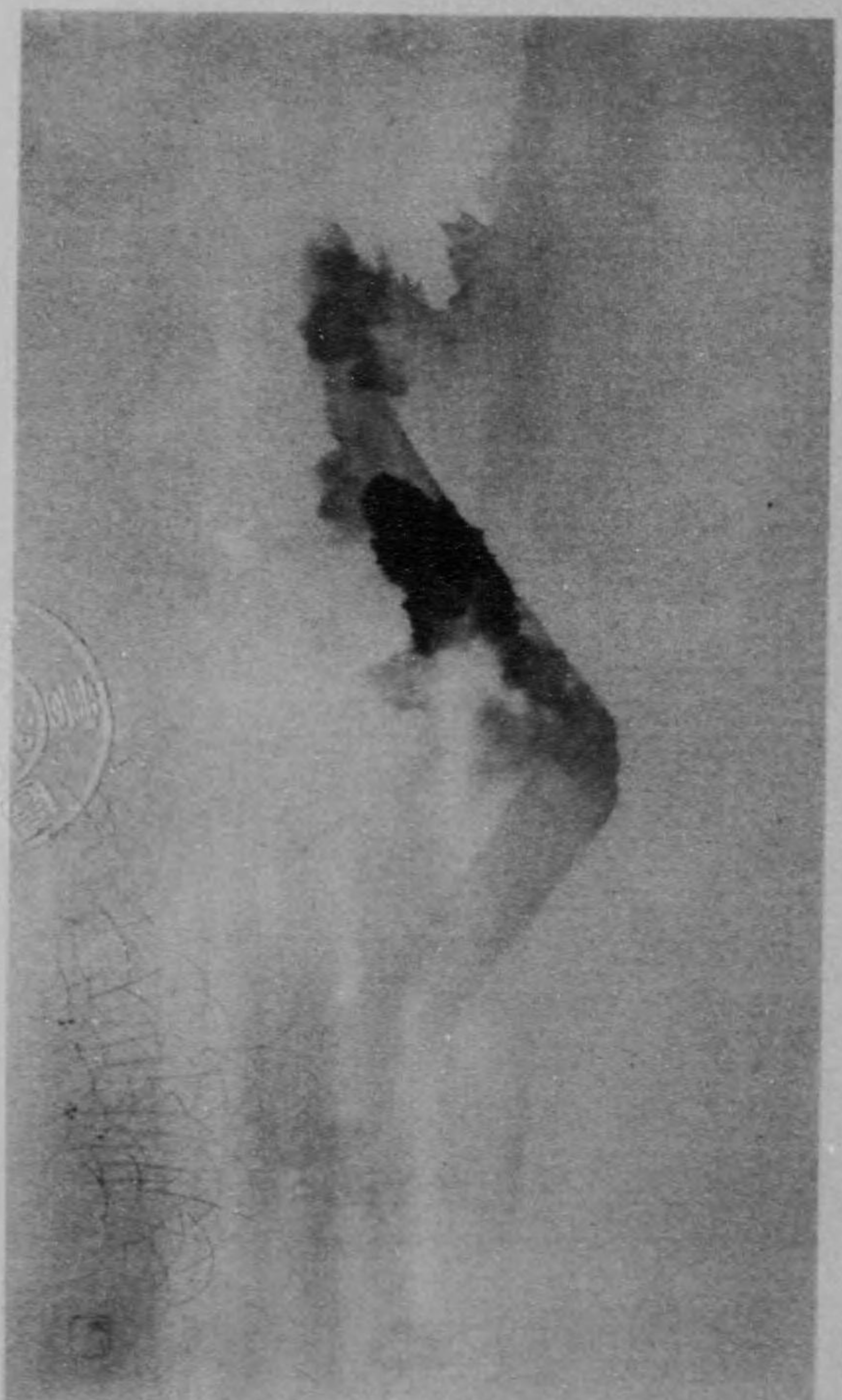
文政三年三月十日寛永寺二堂のかたはらに花を見て
よめる 文晁 入あひの鐘のひびきに花ちりてひと
の心にかゝる雪かな



四四 字喜多一蕙

紙本

縱一尺三寸三分 橫二尺三寸
印文 一蕙





四五 冷泉爲恭

紙本

縦二尺五寸一分 横九寸一分

印文 菅

畫のどころのみを撮影したるなり

四六 僧 慈 雲

紙本

縦三尺九寸 横九寸一分

譯文

ほめばほめそしらばそしれもろともにあるかなきか
もわかなくの世に 百不知童子

印文 慈雲

考證 所謂葛城の慈雲にて緇徒の碩學なれども歌は範
とすべからず

日久乎何りや
あうる久う世尔
慈雲

跋

人々から我南天莊先生の覽に供し又は其鑑定を乞ふ墨蹟の中には珍物稀品尠からず後に聞いて見るを得ざりし事の惜まるゝ事が往々あるので二年前から先生に請うて數日間留めおかるゝ事の出来るものは先生の通知を煩はして寫眞師大塚稔君を伴うて參邸して撮影したものが若干の數に上つたさて初には公刊する考も無かつたから其寫眞を同好者十數人に頒つて居たが寧公刊した方がよからうといふ人が多から簡單なる解説を附して先生の同意と校閲とを獲て寫眞版に附する事にした幸に大方に歡迎せらるるならば第二輯以下も續刊するつもりである但短冊は同門の人々が「潮干のなごり」といふ書を出して居らるゝから成るべくは其方に譲る事にする

大正十一年七月

米叁久保田滿明識

11
191

大正十一年八月廿七日印刷
大正十一年八月三十日出版

【金參圓】

東京市芝區二本橋西町二番地

編輯者 久保田米齋

東京市神田區裏猿樂町六番地

發行者 大塚稔

東京市神田區裏猿樂町六番地

發行所 大塚巧藝社

電話神田四五七四番
振替口座東京二七七三番

終

